

接合科学研究所 女性の会(JWRI 女会)

梅田 純子

接合機構研究部門 複合化機構学分野 准教授

2022年3月7日(月)昼休みに第13回JWRI女会が、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、教職員32名と学生1名が参加しました。コロナ禍によりこれまで当たり前に行っていたコミュニケーションが取りづらい状況が続くことになり、30分と短時間の開催であってもJWRI女会で集える期待感が寄せられていました。

国連が世界中の女性の素晴らしい活躍と勇気ある行動を称える日として、3月8日(JWRI女会開催翌日)を国際女性デーと定めていることから、その背景や意義、また近年見かけることの多くなったミモザの花との関係などを紹介しました。続いて、新メンバーの自己紹介と退職者の挨拶、メンバーの受賞や活動報告を行いました。さらに、JWRI女会メンバーが講師役となるプチセミナー「アンコンシャスバイアス」を2年ぶりに開催しました。ダイバーシティ&インクルージョンが推進されている一方で、アンコンシャスバイアス(無意識の偏見や思い込み)の言葉自体を初めて聞く人も多いと言われています。アンコンシャスバイアスの概要や事例を紹介するとともに、家族的な背景や社会的役割に基づく固定観念から誰にでもあるアンコンシャスバイアスに気づくことの重要性の説明がありました。特に、自分自身を過小評価して捉えてしまう「インポスター症候群」は、女性に多いと言われていることから身近な具体的な事例説明がありました。また、インポスター症候群に関する自己診断クイズを行うことで、気がついていなかった低い自己評価を認識するメンバーが多く見られました。この改善方法として、まず些細なことであっても自分を褒め、ありのままを受け止めることを積み重ねていくことで、可能性にチャレンジすることを提案されました。

所内で交流を深める機会がないことやコミュニケーションが取りづらい状況が続いています。短時間でも一堂に会して対話を行うことで、会話から生まれる空気感を肌で感じることができ、継続してJWRI女会を開催する重要性を以前より強く意識されるようになりました。今後も、JWRI女会の目的でもある、活気に満ちた環境作りを促進したいと思います。

